

# 辺野古見積もり過少

埋め立ては14%しか完了していないのに…

辺野古新基地工事の経費支出	19年時点の見積もり額	22年度までの支出額	
環境保全措置等に要する経費	700億円	366億円	
埋立工事に要する経費(7225億円)	仮設工事 護岸工事 埋立工事 付帯工事	2000億円 1500億円 3600億円 125億円	1704億円 既に47%支出
飛行場施設整備に要する経費	625億円	1億円	
シュワブ再編成工事に要する経費	750億円	786億円 既に超過!	
総額	9300億円	4312億円 既に46%支出	

※金額は概数

埋立工事経費の支出済み総額  
3159億円(44%)

防衛省は19年12月、軟弱地盤の改良と共に、辺野古3000億円を計上しましたが、22年度時点でも既に47%支出となりました。一方で、22年度時点でも既に46%支出となりました。この辺野古3000億円を計上したことと合わせて、これまでの支出額の内訳を初めて明らかにして工事が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。また、この赤嶺氏は防衛省に提出された「埋め立て工事」が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐり、土砂を投入する「埋め立て工事」の進捗率が14%にすぎないのに、2019年12月当時の見積もり額の47%であった1704億円が、22年度時点まで既に超過していたことが、22日の衆院予算委員会での日本共産党的赤嶺政博議員の質問で明らかになりました。

↓詳説の面

## 衆院予算委 赤嶺氏が追及



# 埋め立て14% 支出は47%

（）で普天間飛行場を建設したの基地が、部隊が配備され、府に囲まれた」と強調。「移設しないや、日本政府が普天間飛行場を建設しなきゃ、他の基地としたのは国際政治的な決断を取らざるを得ない」と述べた。

木原防衛相は、「資材価格や入札費が上昇傾向にある」と弁明。赤嶺氏は「19年当時から埋め立て用の土砂は上がりていない。平均価格の上昇もしていない」と反論しました。

木原氏は、「木原氏は、陸上部の施設を建設するための「キャンプ・シュワブ再編成工事」も当初の実績より小さな見積もりは実際より少なかった可能性がある」と指摘。「これまで赤嶺氏は防衛省に提出された「埋め立て工事」が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。また、この赤嶺氏は防衛省に提出された「埋め立て工事」が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。

（）の赤嶺氏は防衛省に提出された「埋め立て工事」が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。また、この赤嶺氏は防衛省に提出された「埋め立て工事」が全工程の14%のうち47%である1704億円に達した。

米軍が住居の土地を囲い込